岩 手 県 支 部　委員会・研究会 活 動 報 告

活 動 名	令和８年度応用理学研究会野外見学会　　（CPD 番号　８－５　）
主　　催	（公社）日本技術士会東北本部岩手県支部応用理学研究会
日　　時	2026 年 10 月 7 日（水）8：00～18：20
場　　所	岩手県沿岸（田野畑～宮古）
参加人数等	17 名（講師を含む）

活　動　内　容

岩手県支部応用理学研究会では、今年度も継続研鑽の一環として野外見学会を企画し、次のような内容と行程で実施しました。

テーマ：三陸ジオパークの観察～田野畑村から宮古市にかけて～三陸海岸中部の地質

案内者：越谷 信 氏　岩手大学名誉教授　理学博士
岩手大学地域防災研究センター　客員教授

＜行程＞

8:00　広宮沢公園南側駐車場から乗合などにより北山崎ビジターセンターに集合
11：00～11：10(10min)・オリエンテーション(自己紹介・注意事項など)
11：10～11：40(30min)・Stop１　北山崎
12：40～13：00(20min)・Stop２　羅賀の津波石
13：05～13：30(25min)・Stop３　平井賀漁港
13：35～14：20(45min)・Stop４　ハイペ海岸
15：00～15：20(20min)・Stop５　田老の防潮堤遺構
15：40～16：40(60min)・Stop６　浄土ヶ浜・まとめ
＜オブザーバー参加＞：佐藤修一郎 氏（岩手県立博物館　専門学芸調査員）

～内容説明～

今回の見学会では、三陸海岸の地形・地質を観察し、地殻変動や火成活動、侵食・堆積作用が現在の景観の形成に結びついていることを学びました。北山崎の海食崖や海岸段丘、浄土ヶ浜の流紋岩などを通じて、景観を地質学的な成り立ちから捉える面白さを感じました。

平井賀漁港では、宮古層群に含まれる化石や礫岩から、過去の堆積環境を推定する考え方を学びました。また、ハイペ海岸では、地層の不整合に着目し、地層の変形とその後の侵食・堆積という地史を考える機会となりました。専門家の解説により、岩石や地層の特徴を個別の知識としてではなく、一連の地質現象として理解できました。

羅賀の津波石や田老の防潮堤の見学では、災害の痕跡を地質学的に読み解くことと、防災施設の役割を考えることの両面から理解を深めました。またハイペ海岸で遭遇した高波ではより自然の脅威を肌で感じました。

幅広い年代の参加者と気づきや感想を共有し、自分にはなかった視点に触れられたことも有意義でありました。自然の雄大さを楽しみながら学び、世代や所属を超えて交流できる、充実した見学会でした。

最後に、お忙しい中、講師をお引受けくださり、見学会の開催にご尽力を賜りました越谷先生、本当にありがとうございました。

《内容説明文：参加者 井上誠之》

北山崎で撮影した海です。水平線がはっきりと見えるほどの晴天で、海も澄んでいました！→



・・・次ページ以降に活動状況写真・・・

オリエンテーション：自己紹介、注意事項説明



北山崎ビジターセンター駐車場にて
オリエンテーション



講師をお願いした越谷先生
今年もありがとうございます。

Ｓｔｏｐ１：北山崎ビジターセンター



急崖を成す海岸線と海岸段丘が観察できる。
構成する岩石は原地山層。



北山崎展望台で説明を聞く様子



北山崎展望台での集合写真

Ｓｔｏｐ２：羅賀の津波石　明治三陸津波による津波石





羅賀の津波石の説明を聞く様子





羅賀の津波石の観察状況



オルビトリナの化石を観察している様子

Ｓｔｏｐ３：平井賀漁港　宮古層群



平井賀漁港の宮古層群の説明を聞く様子



古代の津波堆積物の観察状況

Ｓｔｏｐ４：ハイペ海岸　北部北上帯の付加体堆積物　不整合　宮古層群



付加体堆積物の説明を聞く様子





宮古層群との傾斜不整合の観察状況

Ｓｔｏｐ５：田老の防潮堤遺構　東日本大震災津波で防潮堤が果たした役割



田老の防潮堤遺構の説明を聞く様子



田老の防潮堤遺構

Ｓｔｏｐ６：浄土ヶ浜　始新世デイサイト～流紋岩　浄土ヶ浜流紋岩



浄土ヶ浜流紋岩の説明を聞く様子



浄土ヶ浜流紋岩を観察している様子







浄土ヶ浜流紋岩の観察状況



浄土ヶ浜を見学後の集合写真　～皆さまお疲れ様でした。～

《写真編集：参加者 木村恵美》

以　上